

イスラエルは、横浜港南台教会のイスラエル団体旅行が計画された時、留守番係を引き受けていた私には、その後チャンスもなく、なかなか思い切って行ける場所ではありませんでした。たまたま「イスラエル聖書の旅9日間 『信徒の友』編集長と行く」ツアーに、「友人が不参加となり、一人旅になる」という方のお話を聞いて、ではご一緒にと、決断し、急遽参加させていただきました。聖書の世界、イエス様が歩かれた土地への興味は尽きませんので、本当に幸いなタイミングとなりました。

この時期のイスラエルへの旅は、嬉しいと言うものではありません。隣国シリアでは政権が反政府勢力によって機能せず、さらにイスラム過激派による ISIS という暴力テロ組織が跋扈し、日本人の湯川遥菜氏、後藤健二氏が人質に取られ、殺害された事件の直後でもあり、悲しみ、戸惑い、不安があったのも事実です。安全面では心配がないという旅行社にお任せするしかありません。

私たち一行は韓国の仁川空港にまず向かいました。仁川空港は小雨模様で、霧がかかっていました。さすがにハブ空港で、とても大きく、機能的に作られています。韓国の伝統文化を伝える店舗がいくつも美しく設えられていましたので、乗り継ぎ時間も楽しむ事が出来ました。そこから、大韓航空のテルアビブ便に乗り継ぎ、目的地イスラエルへと向かいました。飛行時間だけで、合計 15 時間、乗り継ぎのための待ち時間も含めれば、非常に長時間を要する旅となりました。

大韓航空の「ナッツ姫」はまだ陸地にいた時にサービスを受けたようですが、私たちには飛行機が高度1万メートル、飛行速度1000キロを超えた頃に、例の「ナッツ」が提供されました。袋の切り口を探し、引いてみましたが、なかなか切れません。「姫」が激怒したことを思い出しました。私たちは何度も頑張つて、なんとか甘いナッツをナプキンの上に載せることが出来ました。

夜空を飛ぶ窓から眼下にカスピ海が見えました。日本全体がすっぽり入るほどの大きな海のような、世界最大の湖です。真っ暗な中に、小さな光がポツポツと見えました。ここを過ぎて、シリア上空を斜



航空機より撮影

めに南下し、イスラエルへ向かう飛行ルートが示されていましたが、西に直進し、トルコ上空から地中海に南下して、光り輝くテルアビブに到着しました。テルアビブは国連に認められている首都であり、全人口の40%が集中する、第二の都市、文化、経済、産業の中心地とのことです。新イスラエルの建国の祖、ベングリオンがここ、テルアビブを拠点とし、占領のための戦いを開始したとのことで、20世紀に入って作

られた新興都市です。テルアビブは地中海に面し、リゾート的な立地でもあります。イスラエルの経済基盤は、(1)観光、(2)ダイヤモンド研磨業、(3)軍需産業、(4)ハイテク産業、(5)農業で、食料自給率は90%とのことでした。真っ暗な中東の大地の光景を眺めてきた目には、テルアビブの夜景は、文字通り、豊かな国であることが実感されます。出入国の審査が厳しいと聞いていましたが、さほどではありませんでした。現地の女性の顔が、東洋ののどか顔とは一変し、厳しい鋭い感じに見えました。夜遅く地中海に面したホテルに着きました。現地時間の真夜中ですが、ホテル社長の出迎えを受けました。明日は8時出発と聞き、一刻も早く体を横にしたいと思いつつ、それでも日本人、風呂なしには生きられず、入浴後に就寝しました。初めて同室になる二人は「鼾、咳、寝言を許して」と言いながら、バタンキュー。それは私だけ？



ホテルの窓から